

情熱果敢

～生きる喜びを実感できる都市創造～ The Slogan In 2009

Vision

Vol.2

JCI  社団法人埼玉中央青年会議所 広報誌
Junior Chamber International Japan, Saitama-Chuo

対談 タケカワユキヒデ×第14代理事長

こんな活動しています

- 例会報告 8月～11月
- 事業報告 登竜門、REAL DREAM、親学
- What's JC? メンバーの声



▲登竜門



▲REAL DREAM 富士山登頂にて



▲タケカワユキヒデ×江原理事長



大人が変われば子どもは変わる

1 親父として

江原 今、若い親が子どもに対して、あるべき姿や価値観が少しずつ変わってきていると感じます。また、毅然とした態度がとれていないんじゃないかと考えております。我々は、青少年育成運動の中で、「大人が変われば子どもは変わる」というテーマのもと活動しております。今回、1男5女の父親であり、子育てについても本を出されているタケカワユキヒデさんにお話しを頂きたいと思いました。まず、父親像についてお聞かせ頂ければと思います。

タケカワ 自分の事を言う前に、大前提についてお話ししたいと思います。まず、僕は、今の父親達がだめだとは思っていません。昔の親は毅然としていて素晴らしいかった、ということをよく聞きますが、僕はそうは思わないからです。昔は、社会は大人のためにあった。特に僕が子どもの時はそうでした。社会の中に子どもは入れてもらえていませんでした。ですから、昔の大人は、最初から子どもの話とはまともに聞く気がなかった。子どもが何を言っても聞く耳を持たず、「君たちが大人になってから話を聞いてあげよう」という考え方が主流でした。つまり、昔の大人たちは子ども達に対して毅然としていたのではなく、子どもを相手にしていなかっただけだと思うのです。ところが、僕が子どもだったときから40年経った今は、子ども達も社会の一員としてこの社会にちゃんとスペースを持てるようになった。子どもの権利という概念も、社会の中の弱者を救うという概念もちゃんとできてきて、子どもを人間として、大人が認める

る基盤が出来たようになった。ただ、今の大人が子どもだったときは、自分達は大人に認められていなかったから、自分が大人になって、子どもを認めようと思ったとしても、子どもとの関係の作り方がわからない。今の親子関係には、そういう大前提があるのではないかと僕は思っています。だから、現代は、大人が軟弱になった時代ということではなくて、自分はどう振る舞ったらいいいのかわからなくなっている時代、または自信が持てなくなっている時代、というふうに定義した方がよいのではないかと風に思います。そういえば、「友達親子」という言葉がありますよね。どういう風に間違えたのか、今は、あまりいい意味で使われていない感じがするんだけど、僕は、逆に、「友達親子」の関係が一番理想的だと思っています。本当の友達関係だったら、一方が他方に変なことをしたらちゃんと文句が言えるはずなんです。つまり、子どもが親にも意見できるし、親が子どもを諭すこともできる。そういう関係が理想的だと思うんです。いつの間に「友達親子」というのが「なあなあ親子」という意味になったのかっていうのがよく分からないのだけれど、「なあなあ」なんていうのは友達でも何でもないでしょう。とにかく、人々との関係としては、友達関係が最高だと思うので、まず、そこから親子関係を考えれば間違いないだろうと思うんです。ある意味、親としての自分をまず諦めると、方向性が見えてくるんじゃないかっていうのが僕の考えなんです。自分が「親」だって強く思いすぎるから大切なことを見失っちゃう。それよりは、人生の先輩、友達、と考える方が、局面局面で、

答えが見えやすい。

江原 おっしゃる事よくわかります。僕も、ここにいるメンバーみんなもそうだと思うのですが、父親ってなんだろうって考える事があります。あと嫁を見て思う事があるんですが、一所懸命頑張っていて、教育というものに踊らされているというか、もって肩の力を抜けて何回か言ったことがあります。

タケカワ それは、君たちにも言えるとおもうよ(笑)家庭の中の役割といった点では、嫁というか母親よりも、可哀そうなのは父親なんだよね。僕は、昔は家庭の中に父親の役割ってなかったと思うんだ。あったのは、大黒柱としての役割。ある意味、父親は神様の存在。それで何か問題があったときに、一言だけ言って解決するのが仕事だった。でも、そうやって解決するためには、自分が偉くなきゃいけないから、家の中ではへらへらできない。だから、威厳があるように見えたんだよ。でも、今は家の中にそういう神様っていらないでしょ。そんなことやったらもう、奥さんからも、子どもからも蹴飛ばされちゃうよね。さっきも言ったけど、僕たちがこの国におい

て父親を初めてやっているパイオニアなわけ。だから悩むのは当たり前、頑張るなやいけないのも当たり前。これは避けて通れない。自分は自分の親と同じにやるからいいんだというのとは間違いだよ。父親と比べると、家の中の母親の役割はそんなに変わっていないのかもしれない。ただ、昔と違って、女性がたくさん教育を受けてきた事で、もっともっと自分の子どもに教育しようと思う点では変わったかもしれないけど、

タケカワユキヒデ Yukihide Takekawa

1952年10月22日 埼玉県さいたま市出身。
東京外国語大学 英米語学科卒業。

1975年全曲英詩のアルバム『走り去るロマン』でソロアーティストとしてデビュー。翌76年、当時から活動を共にしていたミッキー吉野らとゴダイゴを結成。作曲家タケカワの鋭い感性に裏打ちされた独特のメロディーは『ガンダーラ』『モンキーマジック』『ビューティフルネーム』『銀河鉄道999』などの大ヒットを生み、それらの曲はいまでも多くの人に親しまれ続けている。

作曲家・歌手・音楽プロデューサー・ライブ活動の他、講演、テレビ番組の司会・コメンテーター・イベントプロデューサー・マンガの評論など、マルチアーティストとして幅広く活躍。

実生活では、蔵書7000冊を超えるマンガコレクターという顔を持ち、元祖ビートルズフリークであり、サッカー観戦が大好き、料理が趣味の一男五女、六人の子煩悩な父親として知られ、ベストファザー賞(1999年度)を受賞した。2001年、思春期の子どもをもつ親たちに贈る著書『娘を持つ父親のための本』を出版し、話題となる。



2 大人が変われば子どもは変わる

江原 確かにそうかもしれないです。僕の父親とは違う事をしているかもしれないです。単純に授業参観一つをとってもそうですね。自分の時は、父親は来なかったけれど、自分が父親になった今、出来るだけ出席しますし、周りの父親も来る人が多くなったような気がします。自分が行かなくても、周りは来ている。すると子どもが〇〇君のお父さんきていないって言われちゃうんですよ。

タケカワ 子どもに来てと言われ、授業参観に行くだけで、昔の父親とは違うんですよ。寂しい思いはさせたくないしね。昔は、子どもに言われても、仕事で行けないとか一言で片づけられちゃうんだよね。今は、少しでも顔出そうってするじゃない。それだけでも、子どもを認めている証拠だと思うよ。

江原 なるほどです。最初に毅然とした態度がとれないと言ったのですが、そうした事も含めて感じてしまう所もありました。毅然といえは、子どもを叱る時って悩む事があるんですけど、タケカワさんは、子どもを叱る時に気をつけた点ってどのような事でしょう。

タケカワ 他の家族を見ていて、親が子どもを理不尽な怒り方してるなって思ったことない？

江原 電車内とかレストランとかで子どもに注意している大人自身が、理不尽な事をしてるなと思う事はあります。

タケカワ そうだね。でも、自分の子どもとなると、うまく叱れない時があると思うんだ。そんな時は、さっきも言ったけど、親としてではなく、人生の先輩としての視点になれば、ちゃんと理由を付けて注意できると思う。それ以外で、うちで子どもを叱るときに特に気をつけたのは、子どもの行儀が悪い時に叱る強さと、車の走っている道とか、駅のホーム

で走って遊ぶとかのように、一つ間違えれば、大けがや、命にかかわるようなことをしてかした時に叱る強さを変えて、絶対にしてはいけないことの重みを伝えようとしたことかな。

江原 ただ叱るだけではなくて、何が良くて何が悪いかを教えてあげるという事ですね。そして、なんでなんだという理由をしつかりと説明してあげる事が大事なんですね。

3 愛する地域の未来を考えよう

江原 毎年タケカワさんにもお手伝いして頂いていますが、夢KANNA、登竜門に限らず、歌というフィールドの中での、まちづくりという中で、いろいろな人に夢を与えたりとか、夢と元気をプレゼントしていると思います。が、使命といいますが、どうして始めようと思ったのかお聞きしたいのですが。

タケカワ まず、音楽家の新しい形を模索したいと思っているんですよ。昔は、音楽家って非常に少なくって。それは需要が少なかったって事もあるんですけど。活躍できる場が少なかった。でも今は、音楽家を目指す人がすごく多い。でも、そういう人たちはほとんどが、メジャーデビュー、メジャーデビューしてそれから「ただの人」とまで考えている。でも、僕は、もうそういう時代じゃないと思うんだ。その人が音楽家かどうかの認定は、レコード会社がするんじゃないって、見る僕らがする。その人がミュージシャンなのか、アーティストなのか、かっこいいのか、その人の音楽はいいのか、好きなのかどうなのかっていうのは僕らがする、っていう時代がちゃんとやってこないといけないと思うんですよ。そのためには、みんなが考え方を変えなきゃいけない。ミュージシャンの方も変えなければいけないけど、ミュージシャン達を見る一

般の人たちもみんな考え方を変えないといけないと思う。自分たちの音楽をちゃんと大事にしていける、周りの人たちも、それを大事にしていけるような地域を作りたい。急に日本全体の考え方を変えようと言ってもそうはいかないじゃない。だったら、まず、さいたま市でやろうって思ったんだ。若いし、元気があってこれからの地域だし。

江原 説得力があります。メジャーデビューをしてゴダイゴというバストテンに出ている人が今こういうことをやっているという事が、我々にもパワーがもらえます。

タケカワ あれは偶然と言うか、なぜあんなに売れたのか今だに分からないけれど、自身のものが認められたって言うのはね、ただ、ものすごくうれしかったです。

4 若い世代へのメッセージ

江原 最後に若者に向けて頑張ってくださいというエール、メッセージとタケカワさんの今後の夢をお聞かせ頂いてもよろしいでしょうか。

タケカワ 夢をあきらめるなということでしょうか。昔は、レコード会社との契約を切られるとそれだけで音楽をやめまうという人が多かったけど、今はネットなどに置いておけば、チャンスはいくらでもある。だからや

り続けるべきだと思う。そして僕の夢も同じで、アーティストをやっていることです。昔の夢は早く引退する事でした。(笑)今は、何かを残すとかやり遂げるとかは、もう考えてないです。それよりは、何かを続けること。今までやってきて、やり遂げた感実感できないということがわかってきましたし。何かが終わると、すぐその次の事を考えちゃう。いろんな方向にベクトルが向いているし。やる事は沢山あります。それが一番幸せなことだと思っています。

江原 父親として、また、アーティスト、プロデューサーとして色々なベクトルがありますね。それは、今まで、活躍されている中で、やり続けて終わらずに走り続けようという感じですね。子どもにしても、仲間にしてもいろんな方向を向いて活躍をして、進み続けているタケカワさんの背中って、相当大きいと思います。

江原大輔 Daisuke Ehara

埼玉中央青年会議所 2009年度の第14代理事長を務める。

スローガン 「情熱果敢」～生きる喜びを実感できる都市創造～を掲げ、出会いから学ぶ自己の修練と愛するまちの未来創造「誰もが生き生きと安心して自分の夢と地域の誇りを語る都市」の実現に向け、我々が愛するすべてを輝かす太陽となり、多くの地域市民と夢を共有し、生きる喜びを実感できる都市の実現を目指し情熱果敢に活動中。



こんな



「活動」 しています

THE 登竜門 4th

さいたま市は『夢がかなうまち』というキャッチコピーのもとに、夢KANANAユニットとストバふおライブと2部門でのオーディションを9月



5日にヘブンズロックさいたま新都心で予選、10月10日にさいたまスーパリアリーナで本選を行いました。審査委員長にはゴダイゴのボーカル・タケカワユキヒデ氏が1stから毎年、厳選なる審査を行って頂いています。夢KANANAは『希望のまち』をPRするためのグループに6組、ストバふおは、メジャーデビューを夢見るストリートパフォーマーのライブに10組が本選に参加し行いました。4回目となる今年は例年になくハイレベルな争いになりました。今年のグランプリは、夢KANANAユニットはnoco noco、ストバふおライブはNO NAME BANDに決定しました。



noco nocoには、さいたま市の歌『希望のまち』を通して、さいたま市の魅力を市民の方に再認識して頂き、NO NAME BANDには、メジャーデビューを夢見て活動して頂く予定です。最後に、参加された皆様に『夢がかなうまち』IIさいたま市ということを知って頂けたと思います。

親子で学ぶ

11月に埼玉県内各地で5日間わたって行われた、「第21回生涯学習フェスティバル 学びピアinさい



たま2009」内で、11月1日(日)に浦和コムナール内の多目的ホールにて400名の親子を対象にイベントを企画・運営しました。初めに「親学」と「大人の背中教育」を伝えることで、子ども達に道徳心を教えていく事が重要だという事を理解して頂きました。次に、親子間や地域の子どものコミュニケーションをとる一つの手法として、でんじろう先生の一番弟子としてテレビや雑誌等でも、特に子ども相手に活躍されているチャーリー西村氏の「親子で出来るサイエンスショー」を行いました。最後に、委員会制作の「わが家のルールマニュアル」を発表し今



後の良い親子関係に活かして頂く一助としました。立ち見が出る程の大盛況で、楽しみながら「親学」「大人の背中教育」を学び、笑いが絶えない事業となりました。

DREAM DREAM

夢に向かってまっしぐら！

7月20日(月)〜7月21日(火)の2日間、我が国の象徴であり、文化の母胎ともなってきた富士山の頂上を、さいたま市、上尾市、伊奈町の小学校4年生〜6年生41名でめざしました。

この事業は、子ども達が将来に向かって大切な夢を膨らませ、夢に向かっていく自信を身につけてもらうためには、普段の生活とは異なる大自然を舞台にした、仲間との肌が触れ合うような体験学習の機会が必要であると考え企画しました。天候の悪い中、31名が登頂に成功しました。事前説明会で作成した、自分たちの夢を描いた旗を山頂に掲げました。日本一の山を登り切った子ども達は自信に満ちあふれた表情に変化していました。

参加者からの意見

- とても辛かったけど、頂上までがんばって登れてよかったです。来年もまた登ってみたい。(小学生女子)
- 8合目までしか登れなくて残念だったけど、次は必ず頂上に登りたいです。(小学生男子)



2009年度のこれまでの事業
地域の方々と共に、たくさん
の真剣な顔や、笑顔、涙に出
会えました。

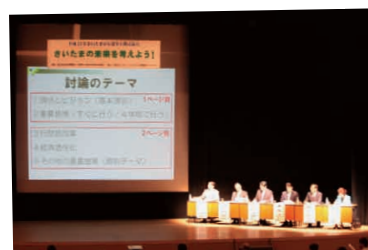
ばらのまち伊奈



上尾元気子どもみこし



さいたま市市長選挙
ローカルマニフェスト型
公開討論会



わんぱく相撲
埼玉中央場所



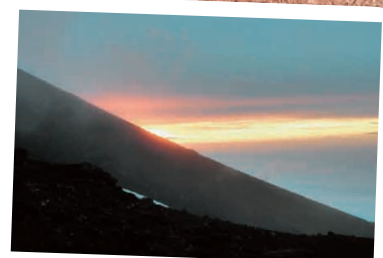
中央区ばらまつり



エコアクション2009



REAL DREAM
～夢に向かってまっしぐら!～



8月 August

8月29日に与野本町コミュニティセンタにて、自然体験を含めた直接体験を基にした夢と、思いやりを持って未来を前向きにとらえられる青少年の育成が必要だと考え、その考えをより地域に強く発信できるように、地域の方々と、例会を行いました。

7月に行われた富士登山事業（REAL DREAM〜夢に向かってまっしぐら〜）に参加された子ども達及び保護者の皆さま、そして、教育関係者をお呼びしました。

プレゼンテーションでは、社団法人埼玉中央青年会議所がこれまでにやってきた青少年向けの事業や本年

度



花まる学習会



9月 September

3月例会において一般参加者をお招きし親の在り方をお伝え

度

第2部では、「花まる学習会」代表として活躍されている高濱正伸氏をコディネーターとして迎え、パネラーには7月事業に参加した子ども4名に登壇してもらい、小学生の時期は人格がつくれるいちばん大事な時期であり、将来を見据えて、この時期の直接体験を通じて夢への自信を深め、様々な苦労を乗り越えていけるような、将来に必要な「力」を身につけることができるという意見をいただきました。

第3部では、大リーガイチローの小学生時代の作文を題材に、夢や目標に向かう道程にはいろいろなことがあり、直接体験の積み重ねのなかで、あきらめないこと、踏ん張ること、もう一歩努力することが夢や目標の達成に必要であることを理解してもらいました。



青少年育成委員会

お招きし、豊富な経験を活かし委員会の考えを裏付けて頂き、また、それを地域ぐるみで実践する「共育」のできる地域社会の構築の必要性を伝えました。



埼玉中央青年会議所 教育政策実践委員会



教育政策実践委員会

10月 October

10月例会ではスキルアップ委員会の集大成として、地頭力をメンバー皆様に学んで頂きました。

地頭力とは、一言で言うのであれば問題解決能力のことです。地頭力の3つの要素としては俯瞰して考える、全体を捉える、そして単純に考えるという要素になります。第1部においては地頭力の第一人者である、細谷功先生を講師に招き地頭力についての解説を頂きました。ここでは地頭力の基本的な考え方を講演頂きました。

第2部におきましては、委員会プレゼンテーションとして、地頭力をどのようにJC運動に生かしているのか、前2回の例会において学んだことも踏まえた上で発表しました。



スキルアップ委員会

11月 November

11月10日(火)に市民会館おのみやにおいて11月第1例会



地域創造委員会

市民が輝く地域の創造を目指して、を開催しました。

本例会では、第1部において我々の活動エリアの恵まれた環境（人口・経済・特色等）と我々の志高き理念（ビジョン2005）をしっかりと認識して頂きました。第2部において講師に浦和レッドダイヤモンズ前代表取締役であり、現在は一般財団法人スポーツコミッション主席研究員の藤口光紀先生より地域のポテンシャルと志高い理念を融合させ、我々の運動が地域市民に伝播し、まちづくり運動に繋がるためには何が必要であるかを日本サッカー界及び浦和レッドダイヤモンズにおいて数々の事業を実践されてきた経験から、一人ひとりの情熱こそが繋ぐことを講演して頂きました。最後に、第3部において我々の情熱を地域にこれからどう浸透させることがまちづくりに結び付くのかを地域創造委員会が考える手法を掲げ発表しました。

1 1994年に取引先の方から勧められ入会し14年間活動して参りました。始めは国旗掲揚と国歌斉唱等が会の始めに行われ、厳粛な雰囲気には驚きましたが、その必要性を理解していきました。

2 情熱ある青年会議所運動を通じてより立派な人格確立の修練が出来たこと。次世代の為にありべき姿の実現を目指す指標が出来たこと。そして何よりも素晴らしいのが地元を中心に日本全国に先輩や後輩を含めた生涯の仲間が出来たことです。

3 人として柔軟性ある青年期に想像を超えるほどの人との出会いや経験をさせてくれる組織です。熱い思いと積極的な運動を実践した者が成長をする。人としての生き方、その時代その国家の物語は誰も書いてくれない。それは自分自身で創造実践しなくてはならないことに気づかせてくれました。愛する人達が将来、終の住みかとするこの地域や国家の為に利他の精神、惻隱の心を持って情熱果敢な行動をする事を期待します。



職種
建設業
2007年卒業

第11代理事長
金子一夫



職種
広告業
2007年入会

平野友紀

1 2007年4月に入会して、今年で3年目を迎えました。入会したきっかけは、単純にお声掛けいただいたからなのですが、そろそろ自分の事業も落ち着いてきて、街のために自分も何かやらなければいけない時期かな、と思ったのと、同年代の経営者が多いので、いろいろ刺激になり、自身のためになるかと思ったからです。

2 世界的にまで視野が広がって、物事のいろんな見方ができるようになったこと、自分に自信がついたこと、そして同年代の仲間ができたことです。JCの取り組みはお金もらえるものではないので、ある意味、取り組みを通して、その人の人としての器がわかると思うんです。とにかく大きく自分が変わったことは間違いありません。

3 すごくひと言で表現するのは難しいですけど、やっぱり仲間との出会いの場ですね。卒業しても仕事を越えた付き合いができる仲間ができると思います。

What's JC?

青年会議所は活動の基本を「修練」「奉仕」「友情」とし、「明るい豊かな社会を築き上げよう」を共通の理想としています。

- 1 JCにはいったきっかけは？
- 2 JCに入ってよかったこと、あなた自身が変わったことは？
- 3 これからJCに入る方に伝えたいことを教えてください。

1 1992年に入会しました。取引先の方から、入会申込書を渡され、気が付くと入会していました。とにかく入れば後悔はしないと、かなり強引に入会を勧めていました。今では、後悔しないどころか、誘って頂いた事に大いに感謝しています。

2 ありきたりですが、多くの仲間が出来たことです。大人になってから純粋に仲間と呼べる、そして生涯の仲間と呼べる人間関係を作れることはJCの醍醐味だと思います。自分自身も多くのことを学び物事を見極める視野が広がったと思います。

3 第2の青春そのものです。多くのことを学び、多くの仲間ができ、そして多くの思い出を作ることができました。確かにJCで多くの時間やお金を費やしたと思いますが、それには代えられない素晴らしい多くの機会を与えてもらいました。社会人となつてからの18年間、私の人生には常にJCがあり、卒業をすることが寂しいというより不安に感じます。最後に卒業を迎えるに当たり、ただただ「感謝」の一言に尽きます。



職種
小売業
1992年入会

十文字裕司



職種
建設業
2009年入会

菅原秀之

1 2009年早々に連絡を頂きメンバーの方からJCのお話を聞かせて頂きました。話を聞いているうちに「友達も沢山できるよ。」「楽しいよ。」そんな言葉が心に響きJCに行って現実を見てみたいと思いました。

2 例会や委員会、事業にも積極的に参加するように心掛け、その結果JC活動を通じて色々な方と仲良くして頂き、色々な事を学びました。そして、何事にも冷めている感じが私が熱くなりたい、そう思うようになりました。

3 私にとってJCとは、良くも悪くも無限に自分を変えられる場だと思います。何にもない私の引き出しに、何かを入れてくれるJC、それを大切にして今後も楽しくJC活動をして行きたいと思っています。

理事長挨拶

2009年度社団法人埼玉中央青年会議所

第14代理事長

江原 大輔



青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持っています。

希望に満ちた明るい社会、豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、明るい未来のための推進力にならなければならぬと考えます。

我々の活動エリアである政令市さいたま市・上尾市・伊奈町の地域市民の夢を実現するため、同じ理想と使命感をもつ若い世代の人々を集め、友情を深めつつ、激しく影響し合い、若さが持つ未来への無限の可能性を自らの手で効果的に描き出し、地域市民、関係諸団体、行政とのネットワークを築き「明るい豊かな社会」を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動力を結集すべく組織された団体が社団法人埼玉中央青年会議所です。

多くの出会いから学ぶ自己の修練と愛するまちの未来創造「誰もが生き生きと安心して自分の夢と地域の誇りを語れる都市」の実現に向け、共に情熱を燃やす仲間をメンバー一同、心よりお待ちしております。一人の誇り高き情熱は、自発的な意識に変革し、周囲の人々に感動をあたえ、協働という創発的な運動となつて共鳴しあい、大きなうねりとなつて多くの地域市民の心を動かしていくはずで

●埼玉中央と全国の仲間達

(社)埼玉中央青年会議所は、さいたま市・上尾市・伊奈町の2市1町を活動エリアとし、市民が誇りに思える自立都市を目指して地域内で開催される各事業に積極的に参加しています。

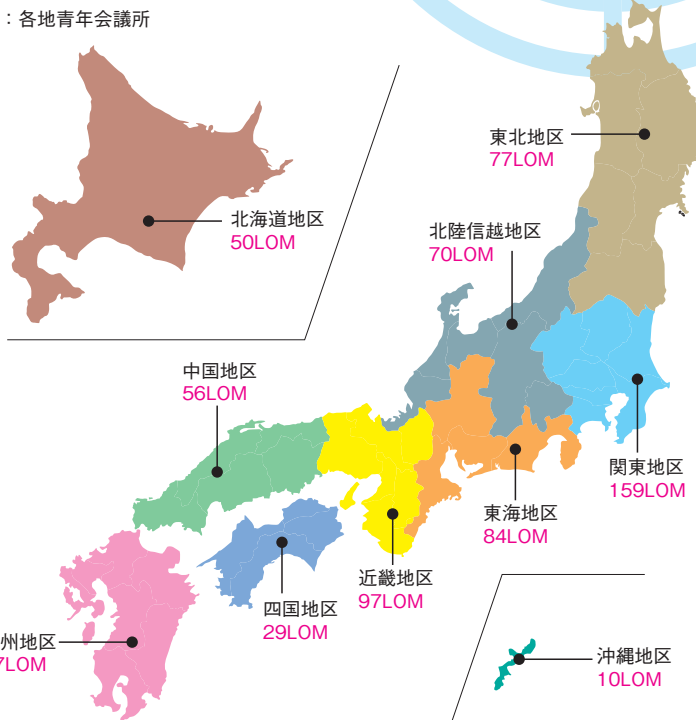
2005年から10年に向けて「ビジョン2005」を掲げ市民が誇りに思える真の自立都市の実現を目指して活動しています。毎月行われる例会・事業において地域のリーダーとしてのトレーニング・研修を行い数万人のメンバーが集う全国規模の大会において開催される様々なセミナーにもメンバーであれば誰でも参加出来ます。

40歳卒業の青年会議所で過ごす数年間は「個を磨き公を知る」絶好の機会として、多くのメンバーが学び友情を育み、卒業後も各方面で活躍しています

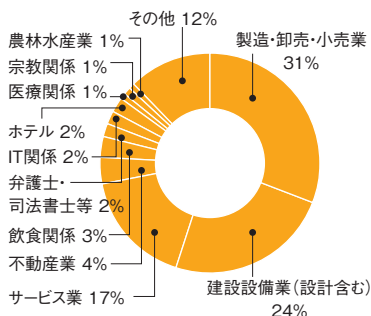
LOM数 709

2009年度(社)日本JCホームページより引用

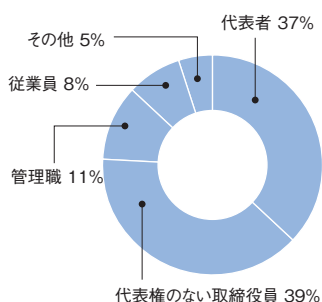
LOM：各地青年会議所



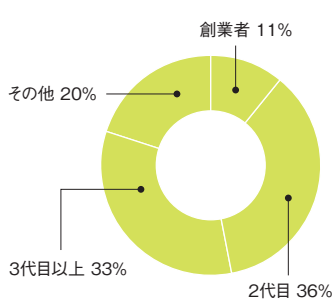
第1次産業～第3次産業まで、あらゆる業種で活躍しています



約9割が取締役&管理職として企業の中核を担っています。



創業者、事業継承者が多く、地域との強い絆が特徴です



会員募集

社団法人埼玉中央青年会議所では、愛する郷土の為、また次世代を担う子どもたちの為に、私たちメンバーと共に歩んでいただける仲間を広く募集しております。

ご入会に関するご説明などは、埼玉中央JCメンバー(拡大アカデミー委員会)がお伺いいたします。

入会資格・費用・お申し込み等は下記のサイト(社団法人埼玉中央青年会議所ホームページ)の「入会案内」をご覧ください。

<http://www.jc766.com/>

私の小さな気づき

先日、駒場競技場で小学生のわんぱく相撲が行われ、私も青年会議所のメンバーとして、お手伝いをさせていただきました。

小学生同士の取組ということで、可愛らしいものを想像していたのですが、児童達の繰り広げる勝負の熱さは、私の想像をはるかに超えるものでした。体格の小さな子が、粘って粘って、ついに大きな子を土俵際でうつちやったり、負けた子が悔しくてぼろぼろ涙をこぼしたり、子どもたちの頑張る様子は、親ならずとも、思わず応援したくなってしまふものばかりですが、私は副審として土俵の側で見ていたのですが、気づけば何度も身を乗り出していました。

日ごろ顔を合わせる仲間のメンバー達も、仕事のときの真剣な顔とはまた少し違った、優しい表情になっていて「あれっ、この人、こんな顔もするんだなあ」などと、新しい発見もありました。

お手伝いに参加させていただいて、子どもと大人、地域の大人同士が互いに触れあい、新たな発見もある、とても素敵な機会だったと思います。来年は皆さんもぜひ、足を運んでみませんか？

総務広報委員会副委員長
満尾直樹

(社)埼玉中央青年会議所ではエコファ運動を推進しています

地球を意識して生活する、そんな人々をエコファ(ECOFA)と呼びます。

私たちは地域や家庭での環境保護運動をはじめ、地道な一人ひとりの活動こそが、大きく社会を変えていく力になると考えます。

私たちが願うこのまちのことを考え、日々の生活から地球を保護して行動を起こし、「エコファ」ではなく「自分」が主体となる人(エコファ)を増やす運動がエコファ運動です。